

よし、やってみよう！

富士川第二小中一貫校
松野学園 学校だより

目指す子供像「夢を語れる子」

学校教育目標「自ら学び ともにみがき合う」

重点目標「よし、やってみよう！」

令和7年10月15日 No.3

松翔祭スポーツの部（中・高等部）

10月2日（木）に松翔祭スポーツの部が開催されました。雨天による延期の影響は感じさせず5年生から9年生の子供たちは、自分たちで企画した競技に精いっぱい取り組みました。夏休み明けから準備や練習が本格化し、真夏を思わせる暑さの中、どの学年も、どのカラー軍もよい競技にしようと皆で協力し合っている姿が微笑ましく印象的でした。

この縦割りのカラーチームは、「松野スマイル」通称「松スマ」で編成されたチームです。これまでも何度か縦割りで活動してきていますが、異学年の話をしたこともない人と一緒にやるのは不安だなと思った人もいるかもしれません。でも、こうして皆で声を掛け合って、5年生から9年生までが助け合って優勝を目指したことが松野学園のスポーツの部の一番大切なところだと思います。

開会式での、カラーリーダー8名の宣誓は、魂のこもった素晴らしいものでした。自分の思いを言葉に変えて思いを叫ぶ姿に感動しました。大勢の人前で、声を張り上げることは、相当なプレッシャーと緊張があったと思います。しかし、それを感じさせず堂々と自分を表現する姿は、松野学園のリーダーにふさわしい9年生の姿でした。「表現する力」が付いたことを感じさせた場面です。



前の週に総練習を行ったときから、児童生徒の動きがずいぶん変わっていました。自信をもって動いている。前回よりも楽しんでいる。より真剣に走り、応援している。この一つ一つにこの短期間で成長したことへの驚きとこれからの更なる成長への期待が高まりました。ルールの変更をしたり、もっといいものにしようと相談したりと「思考する力」が付いてきたことを感じました。

松翔祭では、体を動かすことのほかに、今、自分で判断をしなければいけない場面がたくさんあったと思います。練習の時にはうまくいったのに、うまくいかなかった場面や係の仕事でこまった場面もあったかもしれません。でも、乗り切ることができたのは、一人一人が持っている「判断する力」が働いたからです。この力は、一朝一夕で身につくものではなく、たくさんの経験が必要です。子供の判断力も育った松翔祭でした。



PTAクリーン作戦（9/27）へのご協力ありがとうございました。

松翔祭を迎えるにあたり、先日の9月27日のクリーン作戦では、多くの保護者の方にご協力いただき、校舎内外をきれいにさせていただきました。大変整った環境の中、子供たちが気持ちよく活動できましたのもPTAの方々のおかげです。

今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いするとともに、これからも子供たちへの温かいご支援をお願い申し上げます。



『富士川文化協会』から絵画を寄贈いただきました。

新聞等でご存じの方もいらっしゃると思います。昭和38年の発足以来、旧富士川町域の文化振興を担ってきた「富士川文化協会」が62年間の長きに渡る活動を終え解散しました。文芸や美術、音楽、踊りなど地域で活動する様々な分野のグループで構成され、文化祭や自主事業、機関誌「文湧」の発行などに取り組んできました。

その「富士川文化協会」様より、「富士川地区の未来を担う子供たちへの文化継承の願いを込めて」ということで、日本を代表する影絵作家の藤城清治さんの作品『小人の楽園』の複製画を本校へ寄贈いただきました。

この作品は、図書室南側の体育館2階へ向かう通路に展示してありますので、来校した際には、ぜひご覧いただければと思います。



藤城清治さんってどんな人？
(ふじしろ せいじ)

1924年に東京で生まれました、日本を代表する影絵作家です。

ある日たまたま見た「影絵」に心を奪われ、それからずっと光と影を使った美しい作品を作り続けています。まるで絵本のような世界を作る藤城さんは、「光の画家」とも呼ばれ、なんと、100歳をこえても元気に作品を作り続けています。